福島民報の情報ナビ「Ｔｉｍｅ（たいむ）」に
随筆を寄せる郡山市出身の映画評論家三浦哲哉さんが
『天に栄える村』について全３回連載してくださいました。

随想 映画食

映画評論家・郡山出身 三浦哲哉

▷❷◁

天に栄える村 そのニ

農と食の「実際」を伝える

「天に栄える村」の一場面。©2013映画社／監督：原村政樹、配給：映画社 2013年

前回に続いて「天に栄える村」を取り上げる。

私は生まれ育ちが郡山市ということもあって、震災後の福島にまつわる映画、特にこれはぜひ見ていただきたいと思う映画の上映会を県内外で催す活動を、仲間と一緒にさせてもらっている。

「天に栄える村」も、私たちにとって広く見てほしいと思える一本だった。これまで郡山のほかに金沢でも上映会を催し、映画で中心人物として取り上げられている吉成邦市さんをゲストにお招きし、天栄村の活動について報告していただいた。その理路整然とした語り、穏やかな人柄の奥から染み出す不屈の意志の力に、来場した金沢の観客たちは一様に感嘆し、強く心を動かされていた。

いわゆる「風評」は、県外の特に環境や食の問題への意識が高い層に強く影響した。だからこそ映像と当事者の講演を通して、福島の農と食の「実際」を伝える必要があった。私たちが催した上映とトークの効果はてきめんだった。実際に作り手の顔を見て、その肉声を聞き、農作業と検査の実際を誠実に記録した映像を見ることで、天栄村の米を安心して食べられることが分かった、という声を多く聞くことができた。

決定的だったのは、講演と併せて試食会をしたことだろう。震災前から食味日本一と名高い天栄米の炊きたてのお米をおにぎりが来場者に振る舞われた。すると、誰の顔もほころび、「うまい！」「おいしいです！」の声が次々に上がった。私も食べてまったく同じ感想を持った。天栄米はうまかった。おだやかな甘みが口いっぱいに広がる。つやつやの米粒は、一つ一つはっきりかたちを残していて、口の中でほどける。そして、なつかしい福島の匂いがしたように感じた。

それにしても「風評」とはなんだろうという疑問を、震災以来、強く感じずにいられない。実際に味がいいということ、数値の上で安全であるということとは別に、イメージが食を大きく左右する。何年間もかけて丹念に育ててきたブランド・イメージが、事故一つで吹き飛んでしまう。また逆に、優れた映像作品の力によって、そのイメージや安心感が回復されるということもある。食とイメージ、食と映像は切っても切れない関係にある。それが現代の食の状況なのではないだろうか。

（青山学院大文学部比較芸術学科准教授）

桜映画社『天に栄える村』公式サイト―お知らせ